

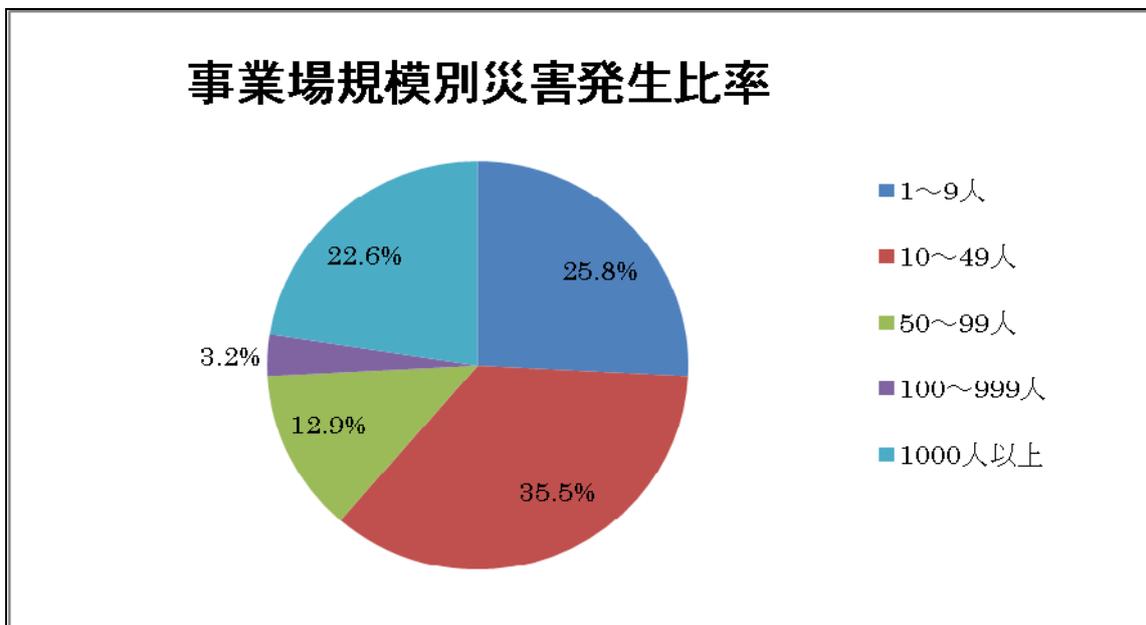
平成 22 年 1 月～10 月末における造船業の休業災害の内容について

平成 22 年 1 月～10 月末に発生した死傷病災害報告から、次の傾向があることがわかります。

1 被災労働者が所属する事業場規模

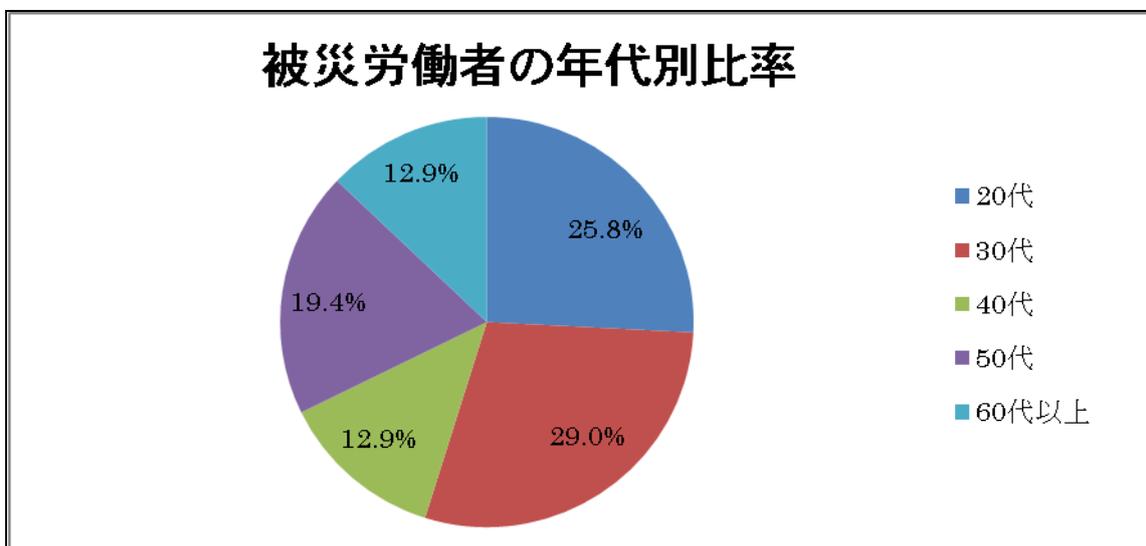
最も災害が多いのは、労働者数 10～49 人の事業場で、全体の 35.5% になっています。次に多いのが労働者 1～9 人の事業場で 25.8% になっており、この 2 つで全体の 6 割を超えています。

また事業場規模 1000 人以上の労働者の災害も全体の 22.6% となっています。



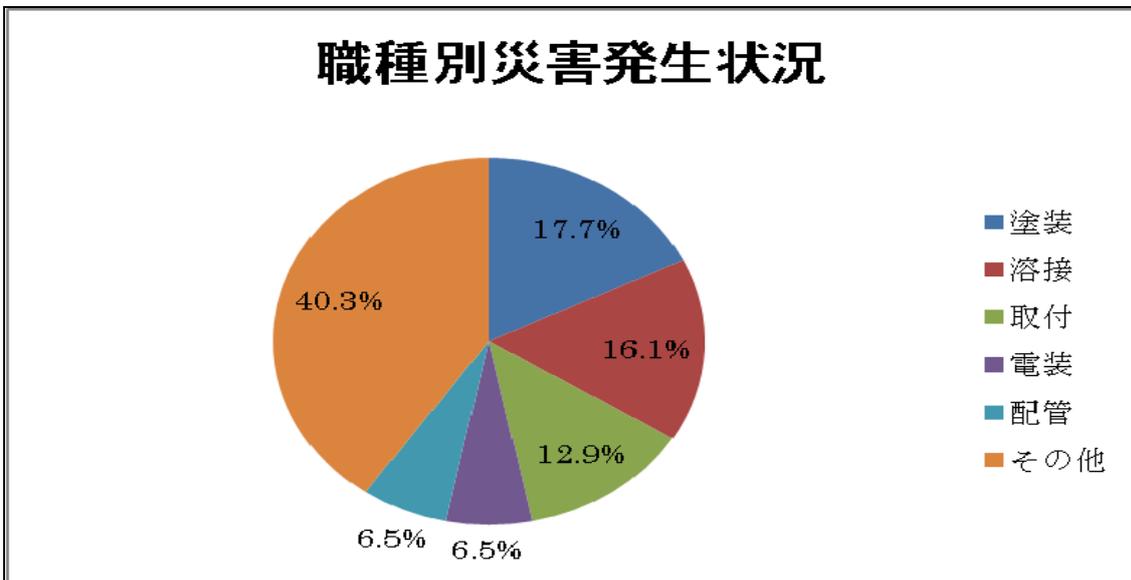
2 被災者の年齢構成

被災者には 20 代 30 代が多く 50% を超えています。また 50 代でも 20% 弱の災害が発生しています。



3 職種別にみた発生状況

最も災害が多いのは塗装に従事する労働者です。次いで溶接、取付の順に発生している。上位3職種で46.7%を占めています。



4 事故の型別の発生状況

事故の型別では、「墜落・転落」が全体の1/5程度を占めています。「はさまれ・巻き込まれ」、「飛来・落下」、「転倒」の4つの型で全体の60%を超える災害が発生しています。

